

子育てコラム 48

性教育(命の教育) その 12 「男児への性教育」 2020. 4月号

以前、第1子が男児、第2子が女児の母親から「男の子は心配ないけど女の子は心配なので小さい時から性について教えていきたい」とお話をありました。「女の子は心配」と多くの方がおっしゃいます。自分の体を知り心を知ることで、相手の体や心を知ることができます。知ることで守ることができます。自分を守り相手を守るためにも、女児も男児も同じように幼少時から性を伝えていきましょう。

男児からトイレットトレーニングの過程などで、性別による排尿の仕方や外見の違いについて「なんで女の子は座っておしっこするが?」「女の子にオチンチンないが?」と聞かれることはよくあります。男女の大きな違いです。男児も絵本を見せながら、ペニス、陰のう、精巣など、性器の名称や構造を教えていきましょう。性器の名前を知ることは体や性を肯定的に受け止める最初の一歩です。

男児の母親からは「ペニスの洗い方とむき方」について質問があります。入浴時、包皮を体の方に引いて、石けんを泡立てた手で洗って流し、包皮をもとに戻すこと、そして肛門の周りも同じように手でやさしく洗うことを教え、3歳ごろを目途に自分でさせていきましょう。「体は自分のもの」という「からだ観」を育てることにつながります。

プライベートゾーンは女児も男児も同じです。自分の大事な体を触られそうになったり、嫌なことをされそうになったら「イヤ!やめて!」とはっきり言えるよう幼少時から教えていきましょう。他人の体を守ることにもつながります。

友だち同士ふざけて精巣を蹴ったりすることがあります。精巣は赤ちゃんのもと(精子)を作るとても大事な場所です。守らないといけない所なので痛みを感じるようになっています。そして精子を作り守るために精巣は陰のうに入って体温の低い外に出ています。このようなことは男女ともに教えていきましょう。男女のやわらかな共生関係に、男児は女児の、女児は男児の性を知ることは欠かせません。

男の子にも、あなた(男児)の命がめばえ、育ち、生まれてきた場所として女性の性器を教えましょう。そしてあなたの妊娠出産時の様子に養育者の気持ちを添えて伝えましょう。子どもは大好きなお母さんから妊娠出産の話しを聞くと安心します。あなたを温かく安全に守っていた子宮のこと、あなたが生まれてきたことで皆が幸せな気持ちになったこと。たくさん話してあげましょう。「性」は周りから大事にされることで育まれていきます。